

第5回(昭和48年度)日本映画照明技術者協会 照明技術賞

劇映画部門 技術賞 “忍ぶ糸” 担当 石井長四郎(東宝支部)
CF部門 技術賞 “クリネックスティッシュ” 担当 中谷 敏清(映放支部)
“ ” 奨励賞 “セイコー・クォーツ誕生” 担当 秋池 深仁(ハイライト支部)
非劇映画部門 本年度出品作なし
T・V映画部門 該当作品なし

劇映画部門「忍ぶ糸」 東宝作品



東宝支部 石井 長四郎
大正7年6月7日生
昭和10年4月 大都映画入社。
昭和11年東宝入社、昭和22年新東宝
入社。昭和27年東宝復帰現在に至る。
昭和20年“続姿三四郎”にて担当者と
なり、昭和29年“青色革命”昭和31
年“流れる”昭和42年“乱れ雲”に
て日本映画テレビ技術協会技術賞を
受く。

選定理由:「忍ぶ糸」の照明は最近劇映画、特に
メロドラマに対する照明がやゝもすると粗雑にな
り勝ちな傾向にあるなかで、よく内容を把握し全
編を通じて重厚な手法で丁寧に作業を進め、適確
な処理は演出意図を助け、撮影効果を一層盛上げ
たるのみならず後進に対する照明技法の反省と発
奮を促がす照明技術は本年度の照明技術賞に値す
るものと認める。

劇映画「忍ぶ糸」 東宝支部照明スタッフ一同
選定理由:「忍ぶ糸」の照明は照明技師の意図す
る表現技術を諸君はよく理解し、之に一致協力し
て近時稀に見る重厚な映像を作りあげた。

これは諸君たち一人一人の技術と努力の成果で
あり、協力のたまものである事を称へ賞讃に値す
るものと認める。

「資料」

“照明意図”“現場報告”その他は第3号に詳述
されてあるので省略します。



写真左より蝶谷幸士、望月英樹、石井長四郎、荒井定邦、
斉藤薫の“忍ぶ糸”スタッフ諸氏

CF部門「クリネックスティッシュ」

日本天然色(株)制作



映放支部 中谷 敏清
昭和10年10月30日生
昭和30年 東映京都撮影所入社。
昭和37年 同社退社、東京自映連照
明協会入会、同解散後フリーとなる。
昭和44年 日本天然色映画株式会社
入社現在に至る。

選定理由:「クリネックスティッシュ」の照明
は、限られた器材、時間その他種々の条件下に於
いて雰囲気、人物、商品等をよく融合させ優れた
映像を作りあげた照明技術は、本年度の照明技術
賞に値するものと認める。

CF「クリネックスティッシュ」照明スタッフ

選定理由:「クリネックスティッシュ」の照明
は、スタッフ各位が担当技師の意図を適確に理解
し種々の不利な条件にも拘らずよく之を克服し、
もつて技師を助け優秀なる映像を作りあげた努力
は賞讃に値するものと認める。

「資料」

“クリネックスティッシュ”ふれたくなる優しさ。
私達の家庭に身近、手近にある存在のティッシュ
の材質と表現を……やさしさ……は……世界の各
国の共通した人間の心であり、母と子供達の愛情
のある人生と生活に“クリネックス”は役割を果
す存在でありたい。クライアント企画演出者の
意図です。

サンフランシスコ、パリ、ミュンヘン、各国の
家庭の雰囲気をもと子供達の生活を現実感覚的の
表現で生かしたい。演出者の意図を対象にしての
ライティングは、世界の人間の生活には太陽と云
う一つの光の下で人類は生き自然は育つ考へ方を
基に表現しました。

太陽の光の存在は天空光や建物の作用で拡散さ
れていても、光は一方から照らし影はその反対に
出る。親と子の自然な心のふれ合う情景には真実
に近い光の方向性とあり方を考え、作意的な照明
技法、不自然な強烈な光線を避ける事を意図して
補助光線は白生地にはバウンズさせ、拡散光にし
て、自然な雰囲気と人物が光線のバランスで、室内
の家具やバックから分離するように留意致しました。

各国での照明機材の使用と、スタッフの協力を
得て、人種または使用機材の違いも作品内容の意
図を深める姿勢の理解に、変らぬ努力と協力のも
とに多くの事を学び得たことを作品完成と共に大
きな喜びを感じました。(詳細は現場報告を参照して
下さい)

奨励賞

CF部門「セイコー・クォーツ誕生」 芝プロダクション制作



ハイ・ライト支部 秋池 深仁
昭和6年2月24日生

昭和20年5月東宝第二撮影所入社、
全21年東宝撮影所合併。全40年12月
東宝退社、全41年2月三船プロと契
約、全5月テレビ映画桃太郎侍にて
担当者となり全45年7月ハイライト
に入社現在に至る。

選定理由:「セイコー・クォーツ誕生」の照明技
術はシュノーケルカメラの機能をよく理解し、膨
大なるライトを適切に駆使し商品イメージを高め、

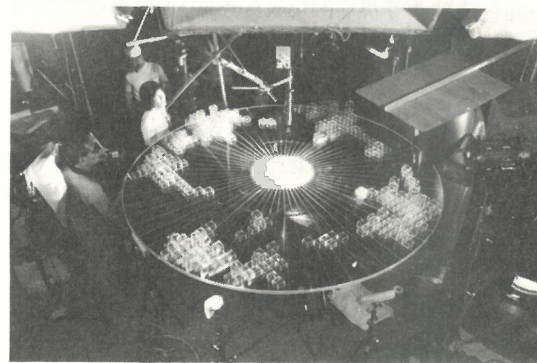
優秀なる画面を作り得た技能は今後の技術の向上
を期待し奨励賞に値するものと認める。

「資料」

夜の宇宙の静寂の中から、カプセルに装置され
た時計のエネルギーの躍動に伴い夜明けと共に時
計のもつ神秘性の表現を意図した。

直径2.7米の円形ターンテーブルに組まれたア
クリル製の模型と、高さ3米、横8米のバックに
対する光量の配分を考慮し、アクリルが透明であ
るためその反射とエッジのテカリをある程度利用
し、時計内部の鮮明度を増すことにした。

シュノーケルカメラの特性として微細部に至
るまで撮影出来るがF16の固定絞りと、カメラ
が時計に前進UPするとアングルファインダーがの
ぞけないためモニターを頼りにライティングする
ので色調の確認が出来ない事と、狭い所に220K
に及ぶライトの配置に苦労した。入射光in、64、
2倍増感、フィルターはFR8、16、OR16、AM
16、BL8、16、GB24、PI16、24、PU24



選定経過

12月19日第1回選定委員会より発足し、出品本数、
〆切期日その他細部に亘って選定規約を改正する必要
があるのではないかと提案があり、これは各委員に
て次回検討することにし、また外部団体その他にも参
加を呼びかけることにしました。

2月13日より日本映画テレビ技術協会のご厚意によ
り京橋近代美術館フィルムセンター及び東宝撮影所、
東映撮影所にて試写を行い、2月19日東宝会議室にて
選定委員会を行いました。

劇映画部門では別記5作品について投票が行われ、
1位“忍ぶ糸”2位“仁義なき戦い”となり3位以下
は可成り点差が開いたので、まずこの2作品について
出席委員全員の発言討論と、1位票得票数が“忍ぶ糸”